



写真1:初夏の園内風景。中央の奥にメタセコイアの林が見える。

大学の知を発掘！
040

大阪公立大学附属植物園 一約 2700 種類の植物を収集・保存一

大阪公立大学附属植物園は1950年に設立され、2025年に75周年を迎えた。約2700種類の植物を収集・保存し、植物学の基礎研究や教育に利用している。その中で、日本産樹木300種類以上を植栽し、日本の多様な気候に応じて成立している11種類の樹林型を復元している。また、絶滅危惧種を収集し、遺伝的多様性の解析や増殖方法の開発を行い、生息域外保全を進めている。

本園を代表する植物の1つがメタセコイアである(写真1、2)。三木茂博士(元園長)が化石から発見した植物だが、1945年に生きている個体が中国で発見された。化石から復元した三木博士の研究が実証され、「生きている化石」の発見として大きなニュースになった。生きている個体の種子から育てられた苗が1950年に導入され、現在も園内で生育している。

水生植物や湿生植物、乾燥地植物など、様々な環境に適応したユニークな植物を展示している(写真3、4)。水

生植物は地面に設置したコンクリートの水槽で栽培されており、水辺の環境に適応した形態を間近に観察することができる。ムジナモは、水中のプランクトンを食べる水生の食虫植物である。環境省のレッドリストで絶滅危惧IA類に指定されているが、当園では巨椋池周辺で採取された株を65年以上保有し続けている(写真5)。ツバキ(約300品種)、ハス(約90種類)、サクラ(約75種類)、タケ・ササ(約70種類)などのコレクションも充実している(写真6、7)。温室で育成している熱帯・亜熱帯植物は、夏季限定で屋外に展示している。週2回のガイドツアーのほか、観察会や夜間・早朝の特別開園も実施している(写真8)。

植物園は大阪府交野市にある(京阪交野線の私市駅から徒歩6分)。大阪公立大学の学生と教職員は無料で入園できる。植物園ホームページ(<https://www.omu.ac.jp/bg/>)には「見ごろの植物」の写真を多数掲載している。

(大阪公立大学附属植物園 厚井 聡)



大阪公立大学・高専基金へのご寄附のお願い
お申込み時に「特定プロジェクトのために:⑨-3」を選択してください。
(⑨-3:1号館ミュージアム構想のために)

【お問い合わせ】 渉外企画課 TEL: 06-6967-1836
<https://www.omu.ac.jp/fund/>

編集発行
大阪公立大学 大学史資料室
協創研究センター・大学史編纂研究所
杉本キャンパス学術情報総合センター6階(大学史資料室)
Tel: 06-6605-3371 E-mail: gr-gakj-archives@omu.ac.jp



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

写真2:紅葉したメタセコイア(ヒノキ科)。写真3:水生植物のヒツジグサ(スイレン科)。日本の固有種。写真4:乾燥地植物のプヤ・アルペストリス(パイナップル科)。南米アンデス山脈の高地に生育する。翡翠色の花をつけるが、開花した株は枯れる。写真5:ムジナモ(モウセンゴケ科)。一日花で昼前に開花し、午後には閉じてしまう。写真6:緑色の花を咲かせるサクラの品種「新錦」(バラ科)。写真7:紅色の花を咲かせるハスの品種「巨棕の鳳凰」(ハス科)。写真8:夜に開花する熱帯性のスイレン(スイレン科)。



資料室だより

◆大学史資料室では「大阪公立大学 大学史資料室 NEWS LETTER」を発行しています。大阪公立大学の貴重な学術資料や大学の歴史を紹介いたします。◆この「NEWS LETTER」は、大阪市立大学「140周年展+大学史資料館(大学博物館)設立準備 NEWS LETTER」の後継誌であり、「大学の知を発掘!」の番号を引き継いでいます。両誌とも大阪公立大学 大学史資料室のホームページ、図書館ホームページの機関リポジトリで公開しています。

大学史資料室からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→杉本キャンパス学術情報総合センター6階 大学史資料室

Tel : 06-6605-3371